

鶴岡アートフォーラム
影絵ワークショップ

ミニムプラプラ
「minim++とつくる“おちつきのない影たち”」

会場：鶴岡アートフォーラム
会期：2007(平成19)年8月4日(土)・5日(日) 2日間

この度、鶴岡アートフォーラムは、影絵ワークショップ「minim++とつくる“おちつきのない影たち”」を開催いたします。

ワークショップでは、アーティスト・minim++と参加者が共同で作品を制作します。

影絵の歴史は古く、ジャワの影絵人形、東洋の回り灯籠、西洋の影絵芝居のように、古今東西で親しまれてきた表現のひとつです。

近森基氏と久納鏡子氏により構成される二人組のメディア・プロダクツ・アーティストのminim++は、“影”をモチーフとしたインタラクティブ作品(観客参加型作品)などで最新テクノロジーを取り入れながらも親しみやすい表現で国内外から高く評価されております。

このワークショップでは、参加者がアーティストとの作品制作のコラボレーションを通して、従来からの作品鑑賞以外に、アーティストとの交流によって普段とは違った視点から作品を捉える機会として計画しています。

完成作品は来年度の春、鶴岡アートフォーラム主催のminim++展覧会で新作として公開します。

また参加者募集にあたり、ワークショップで参加者と共同制作するminim++の作品「Tool's Life」シリーズの縮小版「Tool's Life —father's desk (父の机)」を設置しております。(展示期間6月30日～8月19日)

997-0035 山形県鶴岡市馬場町13-3
T/0235-29-0260 F/0235-22-6051

鶴岡アートフォーラム (お問い合わせ：那須、山岸)

主催：鶴岡アートフォーラム／鶴岡市教育委員会

内容

●影絵ワークショップ

「minim++とつくる“おちつきのない影たち”」

【日時】2007年8月4日(土)・5日(日)
両日とも14:00～17:00

【場所】鶴岡アートフォーラム内

【対象】一般(中学生以上)

【定員】15名

【参加費】500円

【申込み】7月18日(水)より先着順

電話(0235-29-0260)または来館受付(受付時間9:30～19:00)

【アーティスト】minim++(ミニムプラプラ)

近森基と久納鏡子の二人組みによるメディア・プロダクツ・アーティスト

【内容】

アーティスト・minim++と参加者のコラボレーションにより、「Tool's Life～道具の隠れた正体」(注1)という作品のシリーズを制作します。

参加者は金属製の道具にライトで光をあて、その物がつくる影をトレースし、その形をもとに動きだした「影」の形を想像してシルエット・アニメーションの原画を製作します。

ワークショップの最後には、擬似的に影を動かして鑑賞します。

完成作品は、来年度の春に、鶴岡アートフォーラム主催のminim++展覧会で新作として公開します。

(注1)

下写真が、ワークショップで共同制作する「Tool' s Life~道具の隠れた正体」。

卓上のオブジェに触れるとその影が動き出すという、アニメーション手法を取り入れた観客参加型の立体作品。1997年に第1回文化庁メディア芸術祭で大賞を受賞した作品の系譜となる代表作のひとつ。

この縮小版「Tool' s Life —father' s desk (父の机)」を館内に設置しています。(展示期間6月30日~8月19日)



■アーティストプロフィール

minim++ (ミニムプラプラ)

近森基氏と久納鏡子氏により構成される二人組みのアーティスト。

日常のなかの何気ないモノや現象に“ほんのひと工夫ふた工夫プラスして世の中に発信していこうとする”をコンセプトに、現代の映像技術を用いながら、“影”をモチーフに親しみやすい表現で国内外から高く評価されている。

また、作品発表のほか公共空間やイベントなどの空間演出、プロダクトデザイン、大学との共同技術開発など幅広く活動している。

第1回文化庁メディア芸術祭 大賞受賞(1997/日)、
「Ars Electronica” In Touch”」(1997、2003-04/奥)、
「映像体験ミュージアム」(2002/日)、「Ombere et Lumière」(2005/仏)、愛知万博(2005/日)など世界各地で出展多数。